

健康友の会みみはらは、地域の皆さんに支えられて 2024年11月17日 40周年を迎えます

「友の会の40年を振り返り、未来を展望する」(仮) <第3回>

南花田支部 診療所といっしょに地域活動に取り組んで

設立当初から、南花田診療所（現・みみはらファミリークリニック）と一緒に地域活動に取り組んできた南花田支部の皆さんにお話を伺いました。

持参してもらった花見の写真を見ながら、「診療所の看護婦さんは、独りの人をいかに外に連れ出すか苦勞してはった。花見、かきつばたを見る会、クリスマス会にも職員さんと一緒に取り組んだ。私たちが楽しみながら、お弁当を作ったり…私たちが若かったし…」と。

世話人の鮫島さんは、2つのことを話してくれました。診療所の建替えの時に、「職員さんが協力をお願いしてくれた会員さんのお宅に、私たちが協同基金をもらいにいくんです。待っている間、握りしめて、びちゃびちゃになった千円札、思いのこもった千円札を渡してくださったこと」、「東日本大震災後、宮城県南山元町に民医連と友の会で復興の支援に入った時、被災された方がお礼を言いながらいつまでも見送ってくれたこと」が、長い友の会の活動の中で最も印象に残っているそうです。2006年に南花田診療所は、みみはらファミリークリニックとして、南花田町から蔵前町に移転しました。南花田支部も2011年に新金岡支部と分割しましたが、結成のころからの世話人さんが多く、支部同士も協力し合っ楽しく支部活動をしているそうです。



南花田支部の皆さん。後列左から小嶋さん、中井さん、藤田さん、前列左から、都家さん、鮫島さん



当時の中井さんと藤田さん



大泉緑地でお花見会



2006年2月 南花田建替え統一行動



2011年6月25日 震災復興支援

ここ数年、コロナ禍ということで、利用者の皆さんは大好きなカラオケも歌えず、カラオケを楽しむのの一つとしてデイへ来られていた方の中には、それだけが理由ではないにしても、利用自粛に至った方もおられます。自粛することで、特に脚

介護の現場から ⑳

介護老人保健施設 みみはら 事務長 津留 政美

社会に訴え続けることが大切

用者の皆さんがいつまでも住み慣れた自宅、地域で最期まで住み続けられるように力を発揮すべき専門職であると同時に、感染拡大防

現在、通所の利用

力が低下し、自宅での介護が困難となり、施設入所に至ったケースも少なくありません。私たちは、利

止に努めるという役割もあることから、鼻水やセキ、微熱などある場合は、デイを休んでいただくよう、勧めざるを得ないという現状もあります。誰もが不

腹話術のチャタリ さき子さん



杉研修医のサクソ演奏と伴奏の石井さん



3年ぶり 新春文化のつどい 南区ブロック

3年ぶりの「つどい」は、食事も送迎もありませんでした。たくさんの方が楽しみました。森事務長の情勢や鳳ワニック建て替えの報告には、「よくわかった」「楽しみです」の感想が

ありました。杉義人さん（総合病院研修医1年目）のサクソと石井智子さんのピアノはライブ会場にいるよう

腹話術のチャタリさんは、人形のさき子さん（92歳）と楽しい会話。会話に身に覚えがあるのか、参加者は腹を抱えて大笑い。「耳をだま

3・1ビキニデー集会 核兵器禁止条約に参加する日本へ



4年ぶり現地開催の「3・1ビキニデー集会」に、鳳支部とものご家族4人がオンライン参加しました。核兵器のない平和な世界へ、「日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める行動」を広げていく決意を新たにしました。